

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	福永 意人（6）	<p>1. 小中学校における空調設備（エアコン）の整備について</p> <p>近年、地球温暖化の進行により、災害級の猛暑が常態化している。こうした気候変動の影響は、学校現場にも深刻な影響を及ぼしている。</p> <p>本市においては、普通教室、特別教室、給食室など、計画的かつ段階的に空調設備（エアコン）が設置されている状況である。しかし、断熱性や通気性に乏しく、夏場には室温が40度を超えることもある小中学校の体育館には未整備であり、極めて過酷な環境となっている。児童生徒が体育の授業や部活動、集会等で使用する際には、熱中症のリスクが非常に高くなっており、子供たちの健康と命に直結する深刻な問題である。また、体育館は災害時の指定避難所としての役割も担っており、地震や風水害などの非常時には多くの市民が避難生活を送る拠点となる。空調設備が未整備のままでは、酷暑や厳冬の中での避難生活において、熱中症や低体温症などの二次被害が発生し、災害関連死を招くおそれがあり、避難所としての機能に大きな制約が生じてしまう。特に高齢者や乳幼児、基礎疾患を持つ方々にとっては、空調の有無が命に関わる重要な要素となる。</p> <p>こうした状況を受け、国は2023年12月に空調設備整備臨時特例交付金を創設し、避難所機能を有する学校体育館への空調整備を強力に後押ししている。全国の自治体でも対応が進んでおり、近隣の富士宮市では2027年度までに全小中学校体育館へのエアコン設置を表明、既に設置が完了している焼津市のような事例もある。</p> <p>本市においては、これまでの議会においても体育館への空調設備の整備に関する議論があり、非常に重要性が高く、早期の実現に向けた提言がなされてきた。児童生徒の命と健康を守るため、また災害時における避難所の環境を改善するためには、体育館への空調設備の整備は喫緊の課題である。</p> <p>そこで、以下4点質問する。</p> <p>(1) 近年の気候変動や避難所機能の重要性を踏まえ、体育館への空調設備整備の必要性について、どのように認識しているか。</p> <p>(2) これまでも体育館への空調設備の提言がなされてきたが、どのような研究・検討を重ねてきたか。また、その進捗状況はどうか。</p> <p>(3) 小中学校の体育館は指定避難所となっているが、災害関連死を防ぐためにどのような備えをしているか。</p> <p>(4) 災害時のレジリエンス強化の観点から、全国的にGHP（ガスヒートポンプエアコン）の導入事例があるが、その有用性や課題についてどのように考えているか。</p>